



ハートに火をつけよう！

先日、ミャンマーで小児医療活動を行っている国際医療ボランティア「ジャパン・ハート」の代表である吉岡秀人さんとお会いしてきました。「情熱大陸」というテレビ番組や朝日新聞 be「フロントランナー」という記事などで紹介されているのでご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが。忙しい治療の合間に本も執筆され、短い帰国時には精力的に講演も行っています。サインをいただいた「飛べない鳥たちへ」という著書は塾の本棚にありますのでみなさんも一度読んでみてください。本の中には誰も切り開いてこなかった道を突き進む情熱があふれています。お会いするとご本人は物静かな方です。そしてもう一人、まだお会いしたことはありませんが同じく be の記事で初めて知った年中無休の小児科医院「キャップクリニック」を立ち上げたまだ34歳の白岡亮平さん。お二人とも熱いハートを持って医療というフィールドに立ち向かっている姿に心打たれます。この塾でも、医師としてまた看護師や薬剤師として既に活躍している卒業生がいます。そして現在の講師の中にも医師の卵が二人、養護教諭（保健室の先生）の卵も一人います。ここで教えている経験がこの先、患者さんや生徒たちと接する時のハートに役立つことを願っています。

吉岡さんは14、5歳の多感な時期にテレビに映し出される飢餓にさらされた子どもたちに大きなショックを受けたと言います。しかし本当に医者になろうとしたのは20歳頃「もう自分のためだけに悩むのはやめよう」と決心してからで2浪の末に医学部に入学したそうです。塾生の中にも「やりたいことがわからない。だから目標も見つけれない。」とちょっと困ったような顔で言う人がいますが、私はそれが普通だと思います。キャリア教育が小中学校にも浸透してきて、何となく早く目標を見つけなければいけないようなプレッシャーがあるようですが、もっとゆったりいきましょう。それよりもいろいろな人と会い、いろいろな経験を積み、たくさん感動してハートを熱くすることが今しておくべきことですよ！